

第77期

中間事業報告書

平成14年4月1日 平成14年9月30日

スーパーセシオ
SECIO



蛇の目ミシン工業株式会社

●株主のみなさまへ●

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素は格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。



さて、当社第77期上半期（平成14年4月1日から平成14年9月30日まで）の営業結果についてご報告申し上げます。

（1）経営成績

当中間期におけるわが国経済は、低迷を続ける個人消費や、民間設備投資も盛り上がり欠ける等景気は停滞感を呈したまま推移いたしました。また、金融機関の不良債権処理の遅れ等から、株式市場はバブル経済崩壊以降の最安値を記録し、雇用情勢も依然として明るさが見えないなど、景気の先行きに対する不透明感が漂っております。

一方、世界経済においては、緊迫化する中東情勢や米国主要企業の不祥事等から、米国の経済減速化が懸念され、不安定な為替動向等、世界経済も予断を許さない状態が続いております。

このような状況の下、当社グループにおきましては収益性向上を目標に、より一層の原価低減と経費の削減を図るとともに、スピードを重視した効率的なグループ経営に努めてまいりました。

この結果、当中間期の**連結売上高**は、**228億5千2百万円**（前年同期比1.1%増）となり、**営業利益**につきましては、特にグループ各社の原価低減努力等により、**19億8百万円**（前年同期比29.7%増）の計上となりました。

また、**経常利益**でも、**13億5千9百万円**（前年同期比10.1%増）の計上となり、法人税等を控除した、**中間純利益**段階では、**4億4千2百万円**の計上となりました。

単独決算につきましては、当中間期の**売上高**は**207億4千1百万円**（前年同期比3.7%増）となり、販売費及び一般管理費の削減に努めた結果、**営業利益**は**13億6千2百万円**（前年同期比27.0%増）となりました。

また、**経常利益**につきましても**14億7千1百万円**（前年同期比37.4%増）の計上となり、**中間純利益**につきましては、**6億6千1百万円**の計上となりました。

なお、株主のみなさまには誠に申し訳なく存じますが、中間配当金は無配とさせていただきます。

次に、連結決算につきまして、事業セグメント毎の概況をご報告申し上げます。

<ミシン関連事業>

海外ミシン市場では、米国経済の減速懸念に伴う消費動向が不安視されましたが、最高機種のコンピュータミシンの販売に注力したことや、シアーズ・ローバック社向けにジャノメブランド

のミシン供給を開始したことなどから、当中間期の北米向け販売台数は前年同期比18.1%増と好調に推移いたしました。

また、欧州、オセアニア地域でも、新機種投入によるラインアップの充実が効を奏し、順調に台数を伸ばしました。特に、オセアニア地域では、子会社の営業努力もあって、前年同期比約倍増の売上台数・金額となりました。

以上の結果、海外販売台数は70万台余り（前年同期比16.1%増）と半期ベースでは過去最高を記録し、海外部門の売上高は好調な結果となりました。

国内ミシン市場において、直営支店での販売では付加価値の高いコンピュータミシンの販売に注力するとともに、収益性を重視した効率的な支店運営に意を用いました。また、代理店向け販売では、通販市場や学校向け販売が低調に推移したものの、他社との差別化を図った代理店向けミシンのラインアップ充実などに努めるなど、積極的な営業活動を展開いたしました。

この結果、国内・海外を合わせたミシンの総販売台数は、81万台余り（前年同期比9万2千台増）となりました。

また、ミシンの生産につきましては、台湾・ジャノメミシン(株)での生産台数が、前年同期を大幅に上回る65万台近くを記録し、タイ・ジャノメ(株)でも、5月に生産累計台数が200万台を達成するなど、好調に推移いたしました。これに東京工場を合わせた3工場の生産台数は、半期ベースでは過去最高の86万台余り（前年同期比17万1千台増）となりました。

以上の結果、**ミシン関連事業の売上高は、172億7千8百万円**（前年同期比1.5%増）となりました。

<24時間風呂・整水器事業>

24時間風呂の販売につきましては、当社製品の安全性と利便性を周知徹底すべく幅広い販売活動を展開いたしました。また、前期に引き続き、買い換え需要の掘り起こしに的を絞った営業活動を行なうとともに、新たな顧客層の開拓に取り組みました。

一方、アルカリイオン整水器については、積極的な販売活動により当社製品に対する認知度が増してきたこともあり、前年同期を上回る売上となりました。

この結果、**24時間風呂・整水器の売上高は、13億7百万円**（前年同期比5.8%減）の計上となりました。

<産業機器事業>

産業機器事業分野では、卓上ロボットやエレクトロプレスについての代理店向けセミナーを開催し、当社製品の性能の高さや操作の簡便性等を訴求した販売促進活動を展開した結果、特に卓上ロボットは国内外ともに好調に推移いたしました。

その他の製品につきましては、採算性を重視した拡販活動に努めました。

以上、**産業機器事業の売上高は、14億1千1百万円**（前年同期比0.4%増）の計上となりました。

＜その他サービス事業＞

当社の不動産賃貸収入ならびに各子会社の主力事業である電算情報処理サービス、24時間風呂の据付サービス等を加えた、**その他サービス事業の売上高は、28億5千6百万円**（前年同期比2.9%増）となりました。

（2）財政状態

当中間期末の**総資産は、730億2千1百万円**（前期比10億7千1百万円増）となりました。この増加は主にたな卸資産が前期比15億5千8百万円増加したことと、投資有価証券・繰延税金資産の増加により投資その他の資産が3億9千8百万円増加したこと等によるものであります。

負債の部では600億8千3百万円（前期比11億6千3百万円増）となりましたが、これは主に仕入増による支払手形及び買掛金等の増加に伴い、流動負債が前期比11億1千8百万円増加したこと等によるものであります。

また、**資本の部は、125億3千2百万円**（前期比1億2千1百万円減）となりました。

また、当中間期のキャッシュ・フローの状況は、**営業活動によるキャッシュ・フローが6億2千3百万円のプラス**となり、**投資活動によるキャッシュ・フロー**は投資有価証券の取得による支出があったこと等から**13億7千5百万円のマイナス**、また、**財務活動によるキャッシュ・フロー**は主として海外生産子会社による短期借入金の増加等により**4億4千4百万円のプラス**となりました。

これらの結果、**現金及び現金同等物の当中間期末残高は59億5百万円**となりました。

（3）今後について

今後につきましては、不透明な経済情勢の中で、当社の持つ営業力・生産技術力・開発力を駆使して、より一層の収益性の向上を目標として、変化に迅速に対応できる強固な企業体質を確立してまいります。

そのため、グローバルな視点に立って、国内外の販売力の強化によって、家庭用ミシンNo.1の地位を不動のものとするとともに、収益力を重視した企業運営に取り組んでまいります。生産面では、部品の共通化、外注先の見直しによるコストダウンを図り、徹底した品質管理の強化と生産ラインの見直し等による生産性向上を推し進めます。

株主のみなさまにおかれましては、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長



《連結財務諸表》

●中間連結貸借対照表●

(平成14年9月30日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)	百万円	(負債の部)	百万円
流動資産	22,886	流動負債	51,101
現金及び預金	6,117	支払手形及び買掛金	4,613
受取手形及び売掛金	7,342	短期借入金	42,235
有価証券	203	未払法人税等	912
たな卸資産	7,682	賞与引当金	749
繰延税金資産	971	その他	2,589
その他	795	固定負債	8,981
貸倒引当金	△226	長期借入金	270
固定資産	50,135	退職給付引当金	3,798
有形固定資産	23,724	再評価に係る繰延税金負債	4,114
建物及び構築物	5,114	その他	797
機械装置及び運搬具	1,014	負債合計	60,083
土地	16,528	(少数株主持分)	
建設仮勘定	2	少数株主持分	405
その他	1,064	(資本の部)	
無形固定資産	623	資本金	7,623
投資その他の資産	25,787	資本剰余金	1,694
投資有価証券	9,696	利益剰余金	△1,068
和議債権等	30,000	土地再評価差額金	5,670
繰延税金資産	5,668	その他有価証券評価差額金	△215
その他	1,581	為替換算調整勘定	△1,169
貸倒引当金	△21,159	自己株式	△0
資産合計	73,021	資本合計	12,532
		負債、少数株主持分及び資本合計	73,021

《連結財務諸表》

●中間連結損益計算書● (平成14年4月1日から平成14年9月30日まで)

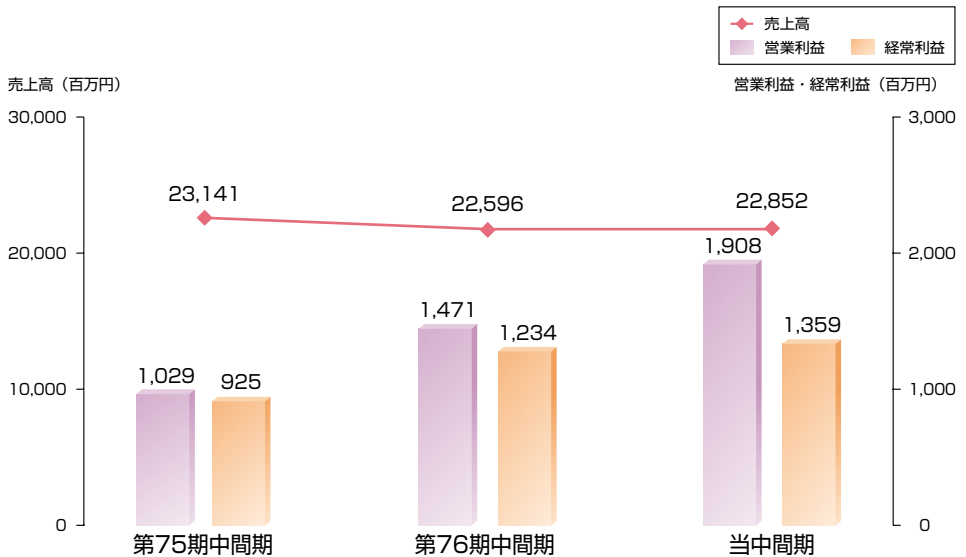
		科 目		金 額	
				百万円	百万円
経常損益の部の	営業	営業収益	高		22,852
		営業費用	原価費 上及び一般管理	10,501 10,442	20,943
	営業利益			1,908	
	営業外	受取配当 受取分法による 受持その	利息 当投資利 金益他	23 131 7 101	263
の部の	営業外	費用	利息 差損他	447 318 46	813
		経常利益			1,359
特別損益の部の	特別	固定資産売却益		11	11
		特別損失	たな卸資産評価損 固定資産売却及び除却損	62 32	94
税金等調整前中間純利益		法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額 少数株主利益 中間純利益		1,276 1,047 △289 75 442	

●中間連結キャッシュ・フロー計算書● (平成14年4月1日から平成14年9月30日まで)

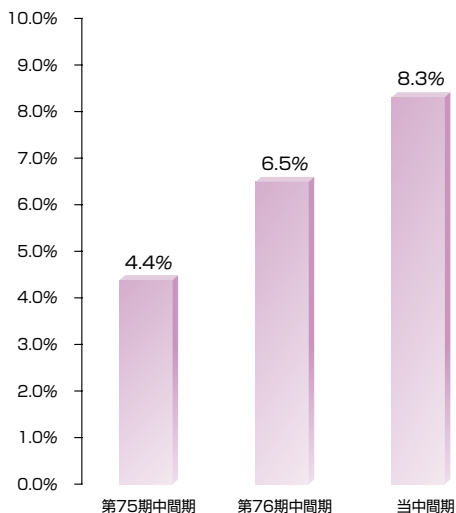
科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	623 百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,375
財務活動によるキャッシュ・フロー	444
現金及び現金同等物に係る換算差額	△90
現金及び現金同等物の増減額 (減少:△)	△397
現金及び現金同等物の期首残高	6,213
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	90
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,905

●中間連結決算概要●

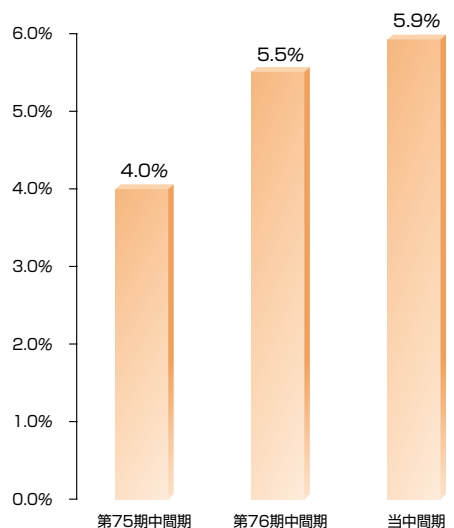
●売上高・営業利益・経常利益



●売上高営業利益率

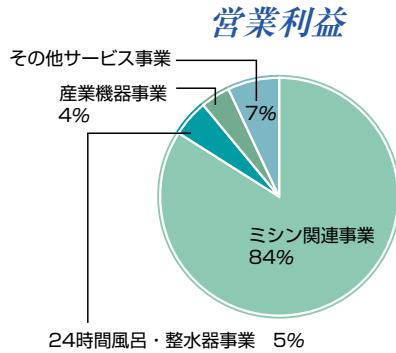
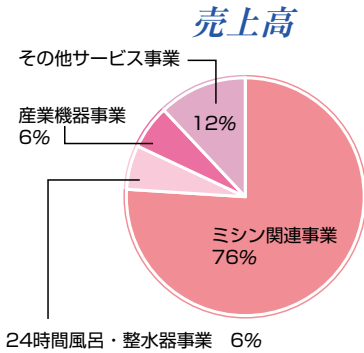


●売上高経常利益率

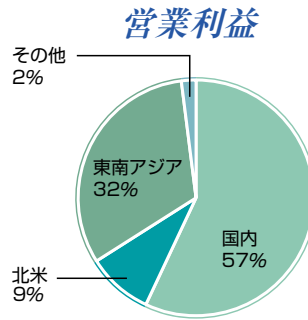
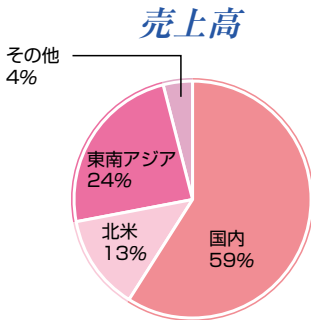


●中間連結セグメント情報●

事業の種類別セグメント



所在地別セグメント

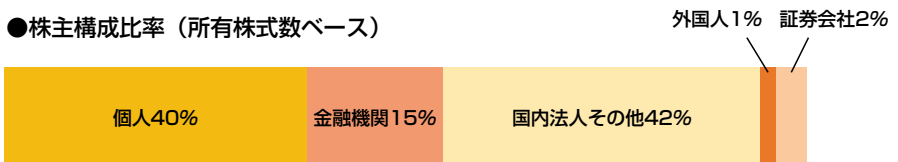


(注) 所在地別セグメントにおける売上高の比率は、セグメント間の内部売上高（又は振替高）を含んだ割合を表示しております。

●株式の状況●

発行する株式の総数 360,000,000株
 発行済株式総数 152,460,000株
 当中間期末株主数 13,714名

●株主構成比率（所有株式数ベース）



《単独財務諸表》

●中間貸借対照表●

(平成14年9月30日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)	百万円	(負債の部)	百万円
流動資産	17,587	流動負債	49,031
現金及び預金	4,998	支払手形	1,638
受取手形	1,153	買掛金	4,402
売掛金	7,937	短期借入金	40,282
有価証券	203	未払法人税等	704
たな卸資産	1,948	未払費用	772
その他	1,458	月掛予約前受金	522
貸倒引当金	△112	賞与引当金	393
		その他	314
固定資産	49,388	固定負債	7,796
有形固定資産	20,866	退職給付引当金	2,629
建物	4,098	役員退職慰勞引当金	250
土地	16,145	再評価に係る繰延税金負債	4,114
その他	622	その他	802
無形固定資産	560	負債合計	56,828
投資その他の資産	27,962	(資本の部)	
投資有価証券	9,076	資本金	7,623
関係会社株式	3,323	資本剰余金	1,694
和議債権等	30,000	資本準備金	1,694
繰延税金資産	5,375	利益剰余金	△4,658
その他	1,346	中間未処理損失	4,658
貸倒引当金	△21,160	土地再評価差額金	5,670
		その他有価証券評価差額金	△181
		自己株式	△0
資産合計	66,976	資本合計	10,147
		負債及び資本合計	66,976

(注) 1.有形固定資産減価却累計額 11,206百万円
2.1株当たり中間純利益 4円34銭

《単独財務諸表》

● 中間損益計算書 ●

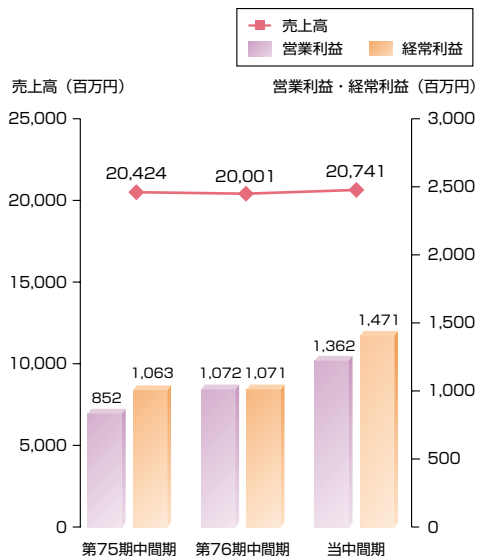
(平成14年4月1日から平成14年9月30日まで)

		科 目	金 額	
			百万円	百万円
経 常 損 益 の 部	営業 損 益 の 部	営 業 収 益		
		売 上 高		20,741
		営 業 費 用		
	売 上 原 価	13,491		
	販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	5,887	19,379	
			1,362	
	営 業 外 損 益 の 部	営 業 外 収 益		
		受 取 利 息	19	
		受 取 配 当 金	713	
		雑 収 入	44	778
営 業 外 費 用				
支 払 利 息	411			
為 替 替 換 差 損	215			
雑 損	42	668		
		1,471		
特 別 損 益 の 部	特 別 損 失			
	た な 卸 資 産 評 価 損	62		
固 定 資 産 売 却 及 び 除 却 損	31	94		
税 引 前 中 間 純 利 益			1,376	
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税			789	
法 人 税 等 調 整 額			△74	
中 間 純 利 益			661	
前 期 繰 越 損 失			5,328	
再 評 価 差 額 金 取 崩 額			8	
中 間 未 処 理 損 失			4,658	

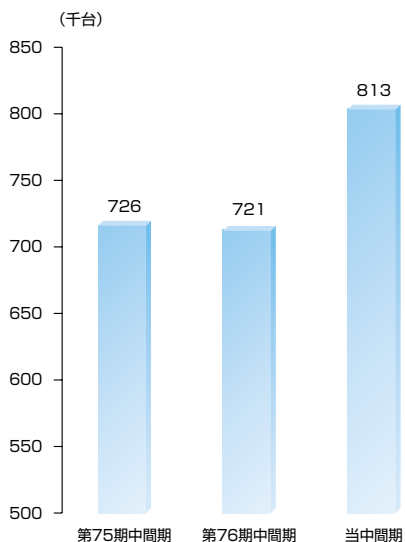
(注) 減価償却実施額 有形固定資産 171百万円
無形固定資産 24百万円

● 単独中間決算概要 ●

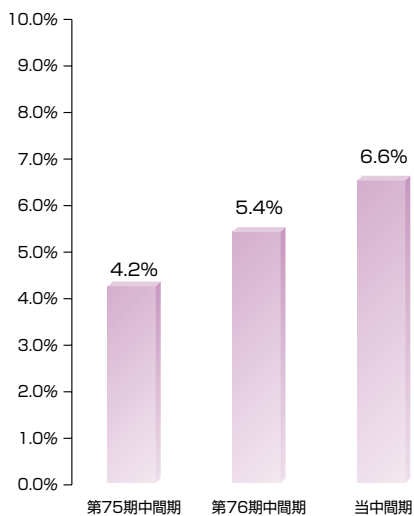
● 売上高・営業利益・経常利益



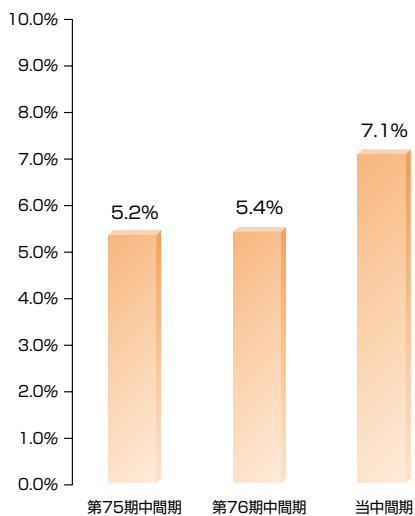
● ミシン販売台数



● 売上高営業利益率



● 売上高経常利益率



●製品のご案内●

スーパーセシオ
SECIO



新発売

メモリーカード
花イニシャル

アルカリイオン整水器

湧銘水スーパ

カラダが本当に必要としている水を
カンタン操作で手軽に作ります。

4重ろ過層で水道水が生まれ変わります。

水道水

4重ろ過層

不織布フィルター
抗菌細粒状活性炭フィルター
抗菌微粒状活性炭フィルター
多孔質平膜フィルター

電気分解

アルカリイオン水

酸性水

浄水

2種類の抗菌粒状活性炭フィルターで
総トリハロメタン・遊離残留塩素(カルキ)や金属臭・カビ臭などのいやなおいを取り除き、
不織布フィルターと多孔質平膜フィルターで
赤サビ・カビ・細菌、ミクロの汚れなどを除去します。
ミネラル成分はそのままフィルターを通過して残ります。



産業機器

卓上ロボット

<高性能化の追求>

- ・高剛性構造
- ・ラビリンス構造
- ・なめらかな動き
- ・豊富なインターフェイス



JR2400

エレクトロプレス

クリーン度クラス10 (0.3 μm)
対応

<クリーン仕様>

- ・気密性を高めた特殊構造
- ・外装はクリーンルーム対応の導電性特殊塗料を採用。
- ・排気用エアコネクターは、使い易い二種類から選択が可能。
- ・ジャバラ内摺動部には、低初塵性特殊グリースを採用。
- ・クリーンルーム環境と一般環境の両方に使い分け機能を装備。



24時間風呂



～家庭用屋内設置型 湯名人スーパーZ～

いつでも入れて、いつでも快適

「湯名人スーパーZ」は清潔なお湯を保つ
三つのセーフティシステムを搭載。

細菌の繁殖を防止する

トリプルセーフティ

1

連続ダブル制菌管

24時間連続して照射する紫外線とオゾン（本体内部処理）、ダブルパワーの制菌管が細菌の繁殖防止に効果を発揮します。

2

自動熱洗浄

週に一度、最高70℃のお湯で40～60分間、自動的に本体内を洗浄。

3

抗菌ろ過剤

抗菌処理したろ過剤を使用。高い除菌効果を保ちながら、お湯の中の目に見えない汚れまでろ過します。



～業務用屋外設置型 バス・エース～

清潔感、省力化、経済性を限りなく追求した次世代のクリーンバスシステム「バス・エース」は、シャノメ独自の「複合除菌システム」によるパワフル浄化で清潔な浴水を実現します。

業務用クリーンバスシステム バス・エース



業務用バス・エースは

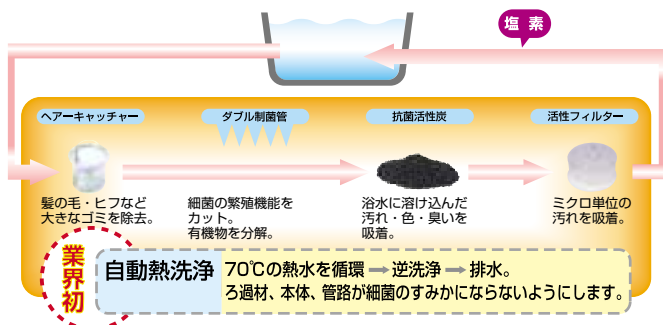
BL1000 (1000 浴槽用)

BL2000 (2000 浴槽用)

BL4000 (4000 浴槽用) の3タイプをご用意。



定期的な点検・整備を行うメンテナンス契約もご用意です。



●台湾・ジャノメマシン（株）ISO14001認証取得



当社マシンの海外生産拠点である台湾・ジャノメマシン（株）では、昨年4月よりISO14001認証取得活動を進めてまいりましたが、本年5月10日付けで、ISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得いたしました。

世界的に厳しくなる環境問題に関する規制や社会環境の中、同社は厳しい審査基準をクリアし、今回の認証取得となりました。この取得は、一昨年に取得した東京工場に次いで当社グループでは二番目となります。

【ご参考】

※当社グループのISOシリーズの取得について

平成7年（1995年）2月	台湾・ジャノメマシン（株）	……………	ISO 9002取得
平成9年（1997年）12月	東京工場	……………	ISO 9002取得
平成12年（2000年）4月	タイ・ジャノメ（株）	……………	ISO 9002取得
平成12年（2000年）10月	東京工場	……………	ISO 14001取得
平成13年（2001年）6月	山梨工場（現 ジャノメダイカスト（株））	……………	ISO 9002取得

●タイ・ジャノメ（株）マシン生産累計200万台を達成

当社マシンの海外生産拠点の一つであるタイ・ジャノメ（株）では、本年5月14日付けでマシン生産累計200万台を達成いたしました。

タイ・ジャノメ（株）は、昭和63年（1988年）に設立され、1998年に累計100万台を達成したばかりであり、好調な海外販売台数の増加に伴って、生産数量も増加し、その後3年余りでこの度の記録を達成したものです。

また、平成12年（2000年）4月には、ISO 9002認証を取得しており、「お客様の要求に合った品質、コスト、納期で製品を提供し、満足と信頼を得る」という同社の基本方針をさらに推進し、品質管理の徹底と生産数量の増大によって、今後とも着実な成長を続けていくものと期待されています。



株主メモ

決 算 期	毎年3月31日
定時株主総会	6月下旬
基 準 日	3月31日
名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 所	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063)
(電話照会先)	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	電話 (03) 3323-7111 (代表)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
株式取扱手数料	名義書換……………無料 新券交付……………1枚につき200円 単元未満株式の買取り……株式の売買の委託に係る 手数料相当額として別途定める金額
公 告 掲 載 新 聞	東京都において発行する日本経済新聞
その他連絡場所	東京都中央区京橋三丁目1番1号 (〒104-8311) 蛇の目ミシン工業株式会社 総務部総務グループ 電話 (03) 3277-2071

----- お知らせ -----

◎住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求、配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-87-2031 で24時間受付しております。

ジャノメミシン

蛇の目ミシン工業株式会社

東京都中央区京橋三丁目1番1号 TEL 03 (3277) 2071

ホームページアドレス <http://www.janome.co.jp>

